

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol.36



ホルシェジャパン 代表取締役社長

黒坂登志明さん

くろさとしあき

「戦後の物が無い時代に幼少期を過ごし、友達と相撲を取ったり、地元横須賀に残る野原跡に基地を作ったりと、素朴な遊びに興じる毎日でした。そんなやんちゃ坊主が、勉強のできる子の行いを見習って始めたのが、図書館通いです。野口英世やエジソンなどの偉人伝に触れて読書に目覚め、姉の本棚にあるモーパッサンやドストエフスキーなどの文学作品にも手を伸ばすようになり、心を支えた本は、ビジネスに勧めたい本などを紹介いただいた。

働く勇気をくれた歴史大河

私にとって本は、大げさでなく生きること直結しています。自分一人が見聞きできる物語は限られていて、小説などを通じてさまざまな人生を疑似体験することで、より豊かな情緒や感性を育ててくれたと思うのです。美しい印象が残っているからこそ二度と読まずにおこうと思う作品もあります。ジョン・ゴッスワージーの『林檎の木』、ウィリアム・ハドソンの『

アイデンティティもビジネススキルも本から

「緑の館」など、姉から借りた恋愛小説にそうしたものが多い気がします。本は、仕事の支えにもなってきました。最初に入社した本田技研工業では、車の輸出業務にあたる外国部に配属されました。営業の半数が中途採用の精鋭で、語学力に長けた人たちがばかりでした。大学の語学系の学部出身でもなく、明らかに力不足だった私は、なりふり構わず勉強に励みましたが、精神的にかなり追い込まれました。大学卒業と同時に結婚したので、家族を養わなければならないというプレッシャーもありました。そんなときよりどころとなったのが、歴史大河小説です。『徳川家康』坂の

ホルシェは羨望の対象であり続ける

独ポルシェAGが日本人を設立した当初から経営を担う。本田技研工業在籍時にヘッドハンティングによってBMWジャパンへ。さらにヘッドハンティングの音がかり、外国車の輸入販売を行うミツウ自動車へ。85年の入社時に年間400万台だったポルシェの国内販売台数を、20年で10倍にした。「世界のポルシェ経営者の中で最古参りになりました。市場環境は国によって違いますが、戦略をめぐっては、本社の役員に遠慮なく意見を、信念が伝わるまで議論を尽くします」信念とは、ポルシェの原点であるスポーツカー「911」の販売比率をできるだけ落とさないこと。近年、高級SUV(多目的スポーツ車)「カイエン」



1946年神奈川県生まれ。71年慶応義塾大学経済学部卒業。同年本田技研工業入社。77～82年営業責任者としてオランダに駐在。84年BMWジャパン入社。85年ミツウ自動車入社。販売担当の取締役就任。95年11月から現職。

の人数がポルシェのビジネスを拡大しているが、「911」への羨望と信頼があつて、この胸を張る。ポルシェの昨年世界販売台数は、前年比22%増の11万8867台で、過去最高となった。ただ、独社は、31以降の日本市場は大幅縮小すると予測している。結果は8%プラスに「マーケティングと営業に注力した成果です。勢に乗る今年のトピックは「911」のニューモデルです」

若いビジネスマンは読んで学んでほしい

「経営の行動指針」も、新米社会人の頃に読み、心を奮立たせた本です。土光敏夫さんの100の語録をまとめたもので、「勝海舟」が親子へのあこがれなら、こちらは父の助言のようにとらえていました。最も響いたのは「日に

黒坂登志明さんがすすめる5冊: 『ラーニング・リーダーシップ入門』、『マーケティング・イラストレイテッド』、『1分間マネジャー』、『1分間マネジャー』(ダイヤモンド社)、『新訂・経営の行動指針』、『勝海舟』

三笠書房 最新刊&ベストセラー: 『頭のいい人は、シンプルに仕事する!』、『魔法のびん詰め』、『仕事ができる社員、できない社員』、『タニタ式カラダのひみつ』、『一流の男、二流の男』、『接遇道』